

【緑地を楽しむ本】

『地球の発明発見物語』

西村寿雄 著

近代文藝社 2010年12月



お散歩の途中、ふと蹴飛ばした石ころ、この石ころはいつからここにあったのだろう・・・石ころの一つ一つがここに来るまでには、きっと長い長い旅があったことでしょう。

黒くてつやのある石、きらきら雲母が輝いて見える石などいろいろありますが、もっとも普通にあるなんということもない固い石、それがチャートです。たいし

て面白味のない石だと思っていたそのチャートが、実は深い海の底で放散虫という小さい生きものの死骸が降り積もってできた石だということです。そんなこと、知らなかった！と、それもそのはず、そんなことがわかってきたのがごく最近のことなので（といっても、1970年

代）。私が学校で勉強した頃には知られていなかったのですね。

チャートを構成している放散虫を調べると、いつ頃生成した石かがわかります。それによって日本の地質年代は3億年から1億年と大幅に若返りました。また、日本の地層の多くが、太古の昔に南の海の底でできて、それがはるばるやってきたのだということもわかりました。そのころ出てきたプレート理論はまだ疑問視する人が多かったのですが、この事実から皆が納得するようになったという話です。たかが石ころ。だけどすごい物語を秘めた石ころだったので。

他にも、足元の地球をめぐるわくわくする話が満載です。読むだけでなく、自分でもいろいろ調べてみたくなりました。地球はまだまだそこかしこに不思議を隠しています。

（小川）